

熱田台地北部東側縁における古墳の存在について

和田 英雄

1 はじめに

名古屋の熱田台地北部東側縁（名古屋市中区上前津町及び富士見町一帯）において、昭和40年3月から始められた名古屋市地下鉄開通工事及び都市再開発工事により、縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の各期に亘る遺物が出土した。私は愛知県社会保険診療報酬支払基金事務所（富士見町2-13、現在は鶴舞社会保険事務所が建っている。）に勤務の傍ら出土遺物の採集、出土地点の記録に努め、縄文時代、弥生時代については、すでに「春日町遺跡」（注1）、「熱田台地北部東側縁の縄文晩期遺跡の分布について」（注2）、「下前津遺跡」（注3）として報告してきた。

古墳時代の遺物については、埴輪が3地点から須恵器等が5地点から出土しているが、今回、これらの資料について紹介し、熱田台地北部東側縁の古墳の存在について述べてみたい。

2 埴輪及び須恵器等の出土地点（第2図）並びに資料（第3・4図）

熱田台地北部東側縁（旧町名は、春日町、不二見町及び下前津町）において採集した資料については、旧町名により整理し、関連する報告書についても旧町名を使用してきたが、名古屋市遺跡分布図にあっては、富士見町遺跡（第1図）として一遺跡名で登録されていることから、本報告においては「富士見町遺跡」に旧町名出土地点を併記して述べることとする。

（1）富士見町遺跡 1地点(不二見町5地点) 第3図1～5

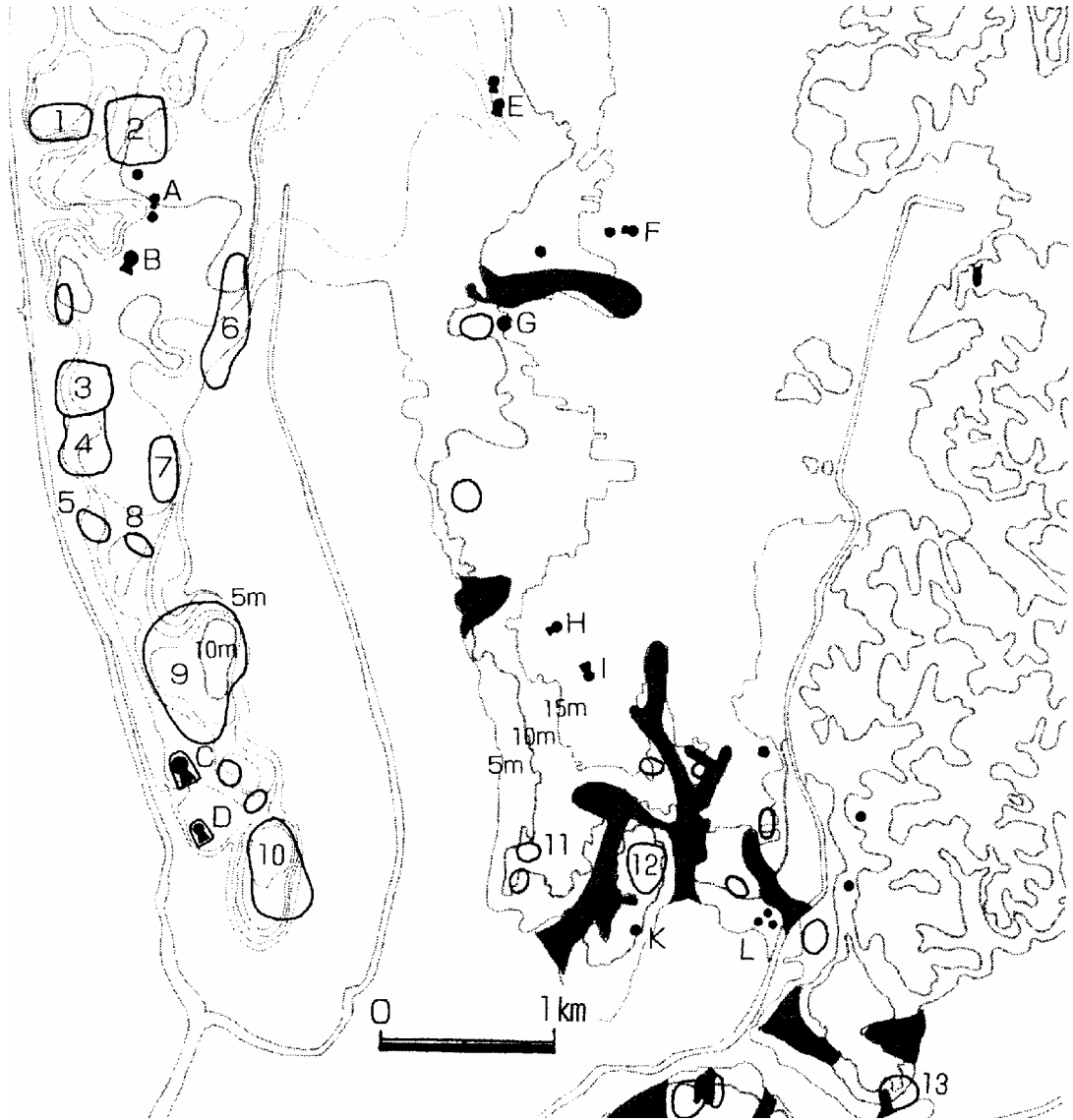
地下鉄工事が始まった昭和40年台は台地縁に畑地がみられ、通勤の途上、採集した埴輪片8点のうち5点について図示した。3は灰白色に近い色相を呈し内面にもハケ調整が施されている。明るい赤褐色を呈する他の4点とは別個体と考えられる。5は円形透孔の一部が残存する。



（2）富士見町遺跡 2地点(不二見町6地点) 第4図15～26

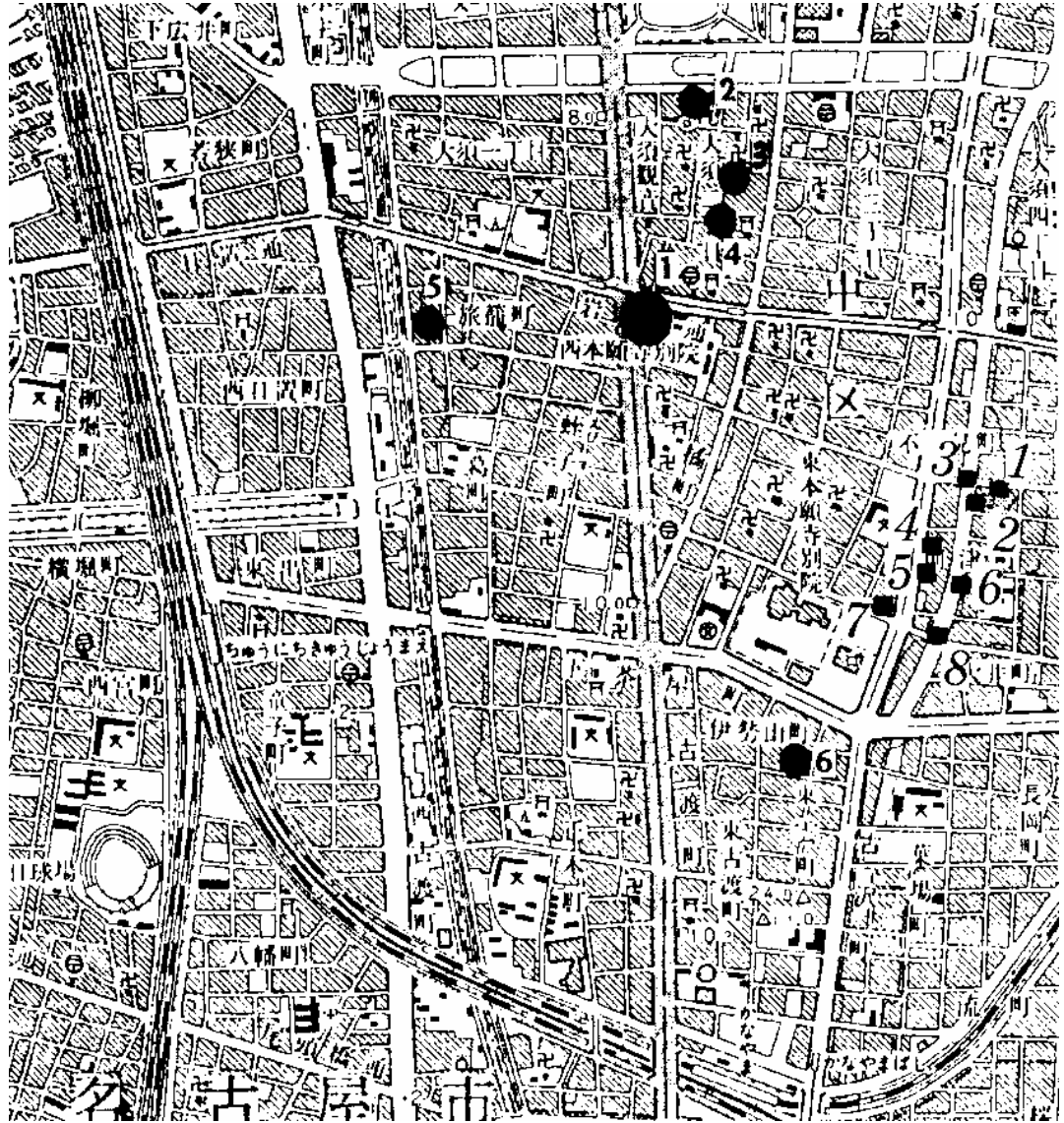
名古屋市地下鉄名城線開通工事中に採集することができた須恵器片28点及び土埴1点のうち12点について図示した。摘み蓋（完形品）の他は小破片のため器種同定が困難なものもあるが20は盤であろうか。

この地点の東側において1982（昭和57年）8月25日にマンション建築のため名古屋市教育委員会文化課が試掘調査を行い、同年10月4日からは、名古屋市見晴台考古



第1図 富士見町遺跡の位置及び周辺の主な遺跡

- 6 富士見町遺跡 7 古沢町遺跡 9 高蔵遺跡 A 那古野山古墳
 B 大須二子山古墳 C 断夫山古墳 D 白鳥古墳 E 白山古墳
 F 馬走塚 G 八幡山古墳 H 八高古墳 I 高田古墳
 (名古屋市見晴台考古資料館研究紀要 第1号 / 1999 名古屋台地の「水」環境考上の
 遺跡と開析谷 瑞穂・笠寺台地を中心に より引用、加筆作成)



第2図 埴輪及び須恵器等出土地点

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 富士見町遺跡1地点(不二見町5地点) | 2 富士見町遺跡2 |
| 地点(不二見町6地点) | 3 富士見町遺跡3地点(不二見町2地点) |
| 4 富士見町遺跡4地点(下前津町9地点) | 5 富士見町遺跡 |
| 5地点(下前津町14地点) | 6 富士見町6地点(下前津町7地点) |
| 7 富士見町遺跡7地点(下前津町16地点) | 8 富士見町8地 |
| 点(下前津町3、4、5地点) | |

- | | | |
|------------|----------|----------|
| 1 大須二子山古墳 | 2 日出神社古墳 | 3 那古野山古墳 |
| 4 富士浅間神社古墳 | 5 雲龍神社古墳 | 6 神明社古墳 |

(小林知生教授退職記念考古学論文集 1978 南山大学小林知生教授退職記念会編 伊藤秋男
名古屋市大須二子山古墳調査報告第1a図大須二子山古墳(1)とその付近の図より引用、加筆作成)

資料館が発掘調査を行い円筒埴輪片1点が出土している。このことについて担当者は注目している。(注4)

(3) 富士見町遺跡 3地点(不二見町2地点) 第4図12~14

名古屋市地下鉄名城線開通工事中に採集することができた須恵器平瓶1点及び須恵器片2点について図示した。

平瓶は、口径7.8cm、器高16.2cm、胴部最大径16.6cmを測る完形品である。口縁部中位置に幅3mmの一条の沈線が廻らされている。底面に篋記号が見られる。



写真に示した土師器の甕は、映像が不鮮明あるが、土砂運搬車の運転手S氏が、この地点で採集し所有していたものである。S氏が洗浄途中に撮影したものであり白い斑点(胎土)が覗える。器高及び器幅とも約20cmであった。

(4) 富士見町遺跡 4地点(下前津町9地点) 第3図6~9

昭和42年4月、ビル建築基礎工事中に掘りおこされた黒土から採集した埴輪片6点のうち図示できるものは4点である。口縁部6及び基底部9がある。7は円形透孔の一部が残存する。6、7とも内面にハケ調整が施されている。8は突帯の幅が太く20mmを測り、色相も焼成不良状態の灰白色を呈している。赤褐色を呈する他の3点とは別個体と考えている。

(5) 富士見町遺跡 5地点(下前津町14地点) 第4図30~31

結婚式場建設工事中に採集した須恵器有台坏及び無台坏2点について図示した。

(6) 富士見町遺跡 6地点(下前津町7地点) 第4図27~29

名古屋市地下鉄名城線開通工事中に採集することができた須恵器片3点について図示した。29は口縁部凸帯以下、頸部に及ぶ範囲に、波状文、3条の沈線に、やや左傾する縦位の櫛目文を重ね、その下に再び波状文及び一条の沈線が、それぞれ施されている。丹念に文様が施された器表面及び裏面は自然釉をかぶっている。

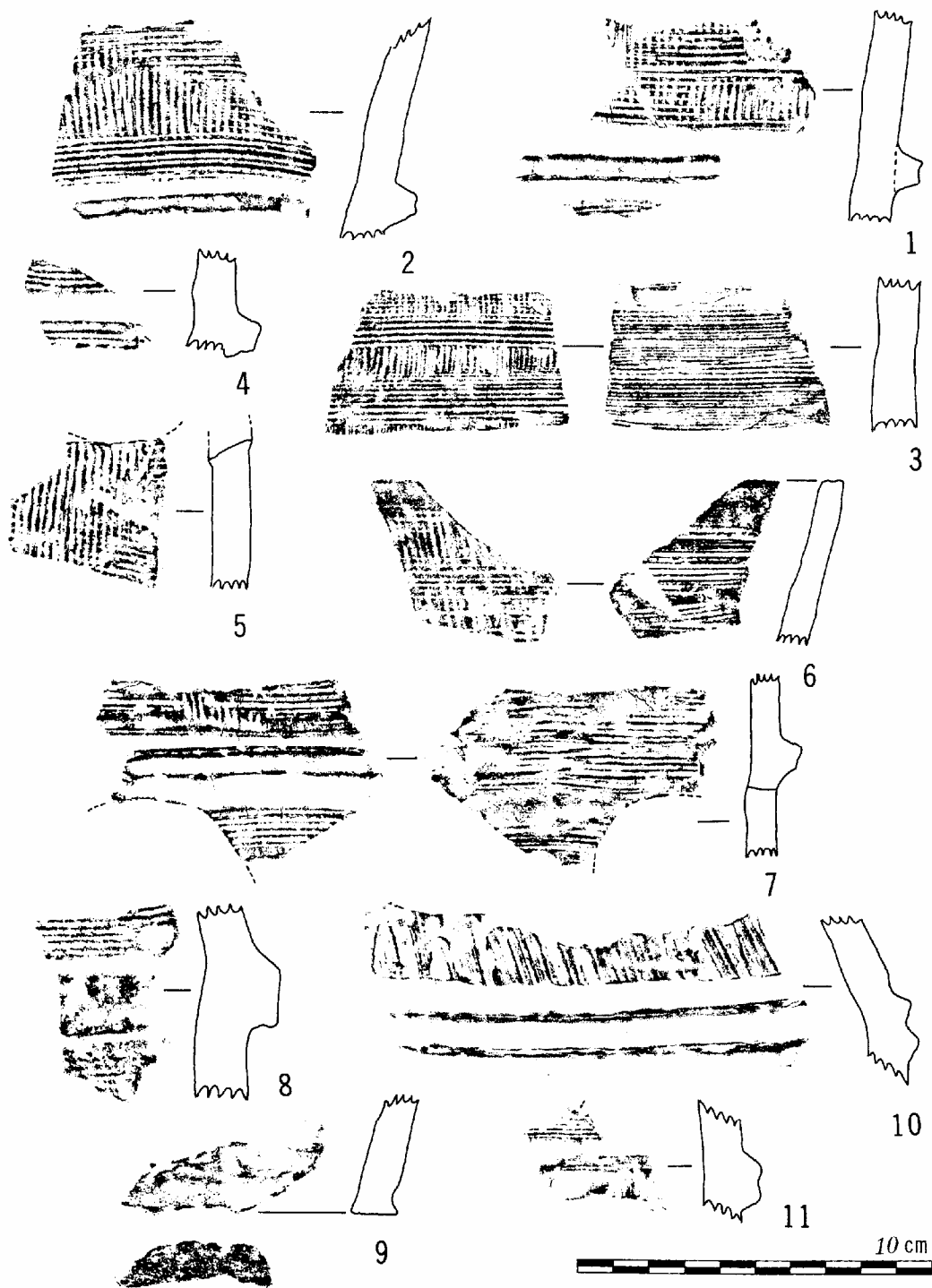
(7) 富士見町遺跡 7地点(下前津町16地点) 第3図10

ビル建築基礎工事中に黒土層中から採集した朝顔型埴輪片1点について図示した。凸帯部復元径は約35cmをはかり明るい赤褐色を呈している。

(8) 富士見町遺跡 8地点(下前津町3、4、5地点) 第4図32~38

名古屋市地下鉄名城線開通工事中に採集することができた須恵器片18点のうち6点について図示した。37は口縁部凸帯直下に波状文が施されている。36は甕蓋を想定している。

(9) 伊勢山町 6地点(神明社古墳) 第3図11



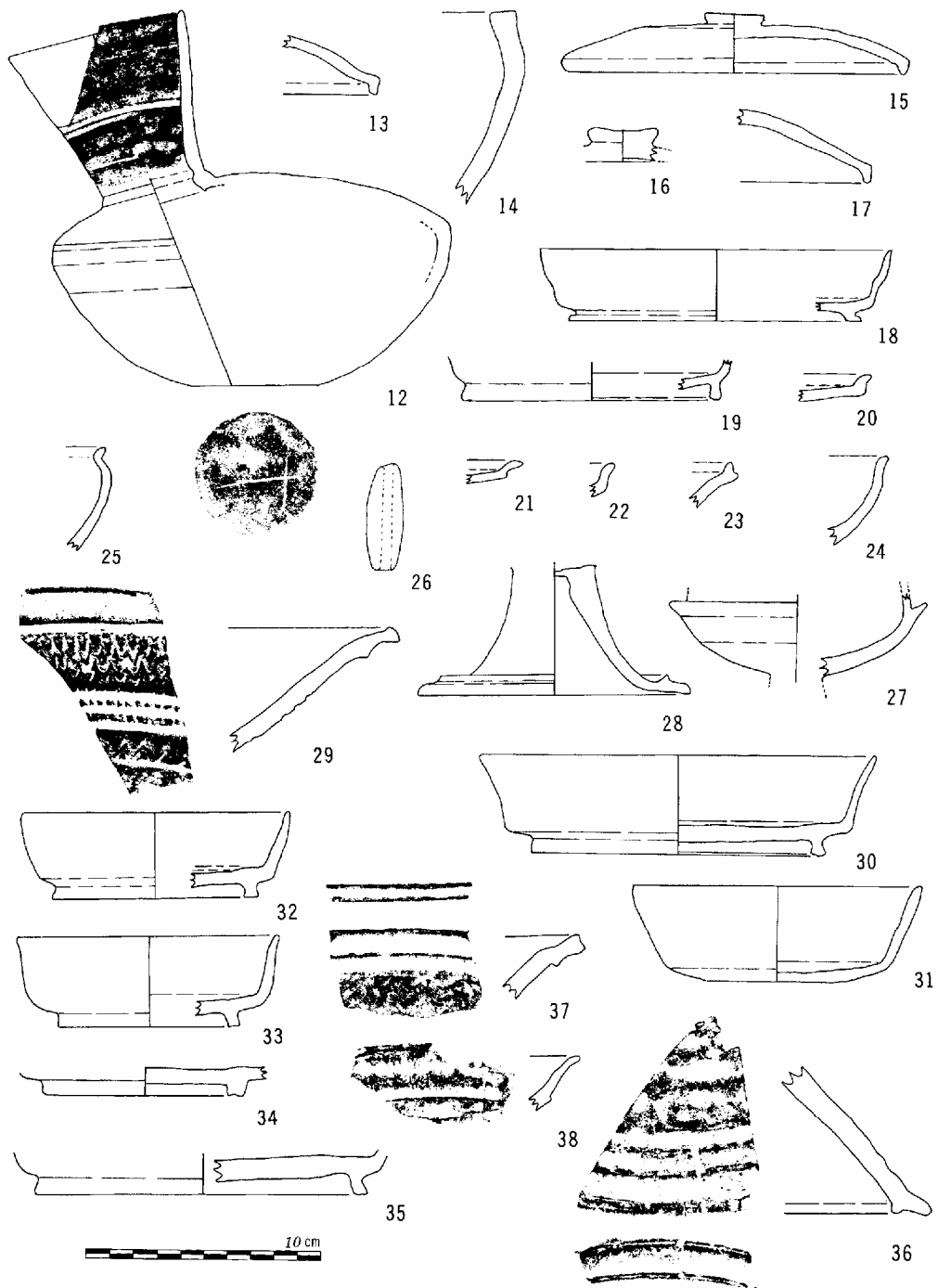
第3図 富士見町遺跡出土埴輪

1地点 1 ~ 5

4地点 6 ~ 9

7地点 10

6 伊勢山町



第4図 富士見町遺跡出土須恵器等

2地点 15 ~ 26

3地点 12 ~ 14

5地点 30 ~ 31

6地点 27 ~ 29

8地点 32 ~ 38

社殿が建つ小山の西側および北側（道路側）は削り取られて道路側は石組みが施されているが、2001年2月、神明社西側においてマンション建設工事中に神明社境内に接する北側道路沿いにおいて掘り起こされた土砂の中から採集したものである。赤褐色を呈している。

3 おわりに

昭和40年から始められた名古屋市地下鉄名城線の建設工事現場は、通行人が簡単に覗ける状況であった。貝殻、土器片が土砂とともにパワーシャベルに掬われ、土砂運搬用トラックにより運び去られる現場を目撃し、多くの遺物、遺構が見落された事態を肌で感じた者が工事現場の土砂の中から「拾った埴輪片及び須恵器片」をもって古墳の存在を論じても注目はされないだろう。なぜ論じるのかと言えば、紅村弘氏の言う「尽きぬ興味」（注5）である。もしかしたら地下鉄工事現場からも埴輪片を「拾う」ことができたのではないか。古墳があったのではないかという興味である。私は考古学を職業とする人たちと違い、富士見町遺跡から出土した埴輪片及び須恵器片について考えることをよこびの対象としているのである。

ところで昭和40年、名古屋市教育委員会は自衛隊の協力を得て守山の古墳の発掘調査を実施していたが（注6）、昭和40年3月から始められた旧不二見町及び旧下前津町地内における地下鉄建設についても名古屋市教育委員会による発掘調査が実施されていたならば、「古渡周辺、伊勢山中学校遺跡、東古渡町遺跡、正木町遺跡、尾張元興寺遺跡にかけては5世紀代から6世紀に非常に発達した集落があったのではないか。」（注7）のほか富士見町遺跡にも発達した集落跡が発見されていたかもしれない。

果たして「古墳時代には古式の須恵器を出土する正木町遺跡、竪三蔵通遺跡、旧紫川遺跡など、台地西側へと中心的な遺跡が移り、以後の富士見町遺跡の役割は、相対的に低下したと考えられる」（注9）のだろうか。

熱田台地の古墳の様相について、「6世紀の初頭、名古屋台地の南西端近くの熱田の地に、全長150mを誇る断夫山古墳が登場します。熱田周辺の台地上では、その後、白鳥古墳や7世紀代の高蔵古墳群などがつくられ、一種の聖域ようになっていくのではないのでしょうか。」（注8）と言われている。

私は、旧不二見町及び旧下前津町地内から出土した古墳時代の資料により、第1図の大須二子山古墳（1）から神明社古墳（6）に至る瑞穂台地を望む熱田台地北部東側縁にも埴輪を伴う複数の古墳が存在した可能性を指摘したい。熱田台地と瑞穂台地の間に広がる低地を取り囲むように古墳が存在したのではないかと考えている。

熱田台地上の古墳の分布様態については、第2図に示されている大須二子山古墳及び過去

に壊滅した周辺の古墳を含めて大須古墳群として把握されているが(注10)、かつて伊藤秋男氏は、古地図や古地籍図から「群」としての古墳を推定復元した結果、名古屋台地には約50基の古墳があったという仮説を述べられたことがある。(注11)本報告が、大須古墳群の復原を試みる研究の一助にもなれば望外の喜びである。

ホームページ(<http://park19.wakwak.com/~wadakouko/>)に埴輪片等の写真を掲載しているので、さまざまな視点からのご教示をいただきたい。

注

- 1 和田英雄 昭和48年1月 『春日町遺跡』
- 2 和田英雄 1978 「熱田台地北部東側縁の縄文晩期遺跡の分布について」『古代人』34 名古屋考古学会
- 3 吉田富夫・紅村弘・和田英雄・飯尾恭之 1970 「下前津遺跡」『名古屋考古学会会報』15 名古屋考古学会
- 4 「中区富士見町所在、富士見町遺跡発掘調査概要報告書」『昭和57年度埋蔵文化財発掘調査概要報告書』 名古屋市教育委員会
- 5 紅村 弘 2004年4月 「瓜郷遺跡に係る偽彫刻の鹿骨について、3 まとめ」『古代人』64 名古屋考古学会
- 6 1966 『守山の古墳調査報告第一』 名古屋市教育委員会
- 7 木村有作 1999 「あゆち潟北部の遺跡(尾張連氏とあゆちの海～埋蔵文化財講演会・第2部パネルディスカッションの記録～)」『年報、平成10年度』 愛知県埋蔵文化財センター
- 8 村木誠・木村有作 1997 「名古屋台地の古墳の様相」『発掘された名古屋の五世紀』 名古屋市見晴台考古資料館
- 9 1992 「富士見町遺跡について」『富士見町遺跡第4次発掘調査の概要』 名古屋市教育委員会
- 10 伊藤秋男 1978 「名古屋市大須二子山古墳調査報告」『小林知生教授退職記念考古学論文集』 南山大学考古学研究室
- 11 伊藤秋男 1981 「名古屋台地の古墳について講演会要旨」『館報みはらしNo.18』 名古屋市見晴台考古資料館